

常任委員会視察報告書

委員会名	教育福祉常任委員会 (前川委員長、藤本副委員長、大石委員、水上委員、中村(て)委員、吉岡委員、志田委員)
視察先 調査事項 など	<u>史跡大町釈迦堂口遺跡について</u> 3月11日(水)14時00分～15時00分 視察先：史跡大町釈迦堂口遺跡について 説明者：文化財課担当職員
視察先 概況	1 史跡大町釈迦堂口遺跡の概況 史跡大町釈迦堂口遺跡は、谷戸の奥に開かれた平場と、その平場を取り囲む丘陵に造られた「やぐら」などからなる、鎌倉時代後期から室町時代にかけての遺跡です。 史跡の指定範囲は、鎌倉市南東部にある「名越ヶ谷(なごえがやつ)」と呼ばれる谷戸の最奥部に位置している平場と、その周辺の山稜部です。平場北側の山稜部には唐糸やぐら、日月やぐら等のやぐらが数多く存在しています。 平成20年(2008年)に平場部分で発掘調査を実施したところ、鎌倉時代中頃にあたる13世紀後半頃に谷戸の大規模な造成が行われ、その後、室町時代の15世紀にかけて、継続して土地の利用が行われていたことが明らかとなりました。特に、鎌倉時代後期～室町時代にあたる14世紀頃には、掘立柱建物や礎石建物が建てられていたほか、火葬が行われていたことがわかりました。周辺にやぐらが残る環境から、なにか宗教的な場があったと考えられていますが、この遺跡に関係すると思われる文献等の記録は現時点で見つかっていません。 現在、やぐらと平場の遺構が一体で残っている場所は、市内でも希少であり、中世の鎌倉の開発と、祭祀信仰のあり方を知るうえで重要な遺跡であることから、平成22年(2010年)に国指定史跡に指定されました。かつて、この一帯には鎌倉幕府初代執権の北条時政の屋敷があったとも言われていましたが、発見された遺構の年代は時政が活躍していた鎌倉時代初期までさかのぼらず、遺跡の状況からも、時政のような武士が住む屋敷ではなく、寺院など宗教的な施設であったと考えられます。 今回の視察では、担当職員から説明を受けながら、現地視察を行いました。

1 史跡大町釈迦堂口遺跡について

今回暫定公開となった場所は、そもそも子どもの頃から知っている場所である。市所有となる以前に所有していたとされる『国際興業?』あるいは『ドイツ人』の建物なども記憶にあるところである。その建物から裏手の山にある『唐糸やぐら』を始めとする『日月やぐら』や『地蔵やぐら』など幾つかのやぐらを、私が鎌倉市二階堂にある鎌倉市立第二小学校の児童であった頃に、当時の先生に連れられて授業として見学に行った覚えがあり、先生からの説明で木曾義仲の家人である手塚太郎の娘である唐糸がやぐらである石牢に幽閉された話を聞き、子どもながらに悲しく恐ろしいと感じたのをよく覚えている。今から50年以上の前のことである。

また、現在、度重なる台風の影響で崩落が続いて通ることができなくなっている、浄明寺地区から大町釈迦堂口に通じ抜けができていたトンネルは、平成22年頃の度重なる台風の影響で使用できなくなっているが、便利に使用していた生活の中のアクセスの一つであったという場所である。言い換えれば、地元住民の密かな道であり、歴史の場所であった。そうした場所が、現在『国から指定された史跡』になっているということが、実際のところ、私にとっては不思議でならない、というのが率直な感想である。

地域でひっそりと大事にしてきたものが、国のものになった途端に、地元から離れてしまうと、色々と考えられるリスク、デメリットが多くある、と感じている。

史跡そのものについてであるが、砂岩質の鎌倉石の壁を活用してやぐらや石塔、地蔵などがあるわけだが、その質の特徴から風化しやすいことが非常に懸念される。国指定史跡ということから、市民から公開することや、他市からの立ち入りを求められるようになる。その場合、周囲の木の伐採や整備がさらに進むこともあるかと思う。しかし、それにより砂岩質の壁の風化が早まるおそれが強く懸念される。

重ねて、不特定多数の人達が、至る狭隘道路を行き来し、また非常に静かな地域に踏み入る配慮を早い段階からルールづくりが必要であると、強く感じた。

また、この度のたった2週間の暫定公開に訪れた人は、約8,000人、と聞いている。公開を決めた当時、主催者にとっては、どれくらいの人達が興味をもって訪れるのか不安もあったのだろうと察するが、今後こうした公開には、簡易トイレの設置や資料などの用意、公開のための細かな整備もあることから、受益者負担も考える必要がある、と考えている。例えば、一人最低百円でも徴収することについて、是非、今後はしっかり検討すべきである！！

前川 綾子
委員長
所 感

1 史跡大町釈迦堂口遺跡について

【国指定史跡・大町釈迦堂口遺跡を現地視察】

— 大町釈迦堂口遺跡の限定公開に見る保全・安全管理・公開の意義 —

国指定史跡・大町釈迦堂口遺跡の期間限定公開（令和8年2月26日～3月11日）最終日に、教育福祉常任委員会のメンバーで現地を訪れました。

本遺跡は、13世紀後半以降に造成され、15世紀まで継続的に利用された中世鎌倉を代表する重要な遺構群です。平成20年（2008年）の発掘調査では、掘立柱建物跡、礎石建物、火葬跡、土坑など多数の遺構や遺物が確認され、平成22年（2010年）8月5日に国指定史跡となりました。一帯には北条時政の屋敷があったとも伝えられますが、発掘成果からは寺院など宗教的施設の可能性が高いとされており、中世鎌倉の土地利用や信仰空間を考えるうえで極めて重要な史跡です。

中世鎌倉の信仰と暮らしを伝えるやぐら群

現地では、「名越ヶ谷」の山稜部に掘られた地蔵やぐら・唐糸やぐら・日月やぐらを見学しました。地蔵やぐらには石刻の大型五輪塔や地蔵菩薩像が残され、当時の供養のあり方を今に伝えています。唐糸やぐらには唐糸伝説が伝わり、鎌倉に残る歴史と伝承の重なりを感じさせます。また、日月やぐらは手前から7基の小型やぐらが並び、そのうち手前の3基が日・月・半月の形に見えることから名付けられたとされ、独特の景観が強く印象に残りました。

保存と公開を両立させる安全管理の現場

現地は急斜面や足元の不安定な箇所も多く、見学者の動線は細かく管理されていました。文化財の保存を最優先にしながら、市民に公開するためには、安全確保と立入管理が欠かせません。今回の限定公開では、誘導表示や立入範囲の設定、説明体制まで丁寧に整えられており、文化財保全と公開の両立に向けた現場の工夫を実感しました。教育福祉常任委員会としても、文化財行政におけるこうした基礎的な整備の重要性を改めて認識しました。

市民の関心の高さと今後への期待

最終公開日ということもあってか、当日は非常に多くの市民の方々が訪れており、老若男女が熱心にガイドの説明に耳を傾ける姿が印象的でした。歴史を知りたいという市民の関心の高さをあらためて実感するとともに、本遺跡が市民にとっていかに貴重な文化遺産であるかを強く感じた一日となりました。

普段は非公開のこの遺跡を、より多くの市民が継続的に体験できるよう、今後の公開機会の拡充と整備の充実を期待したいと思います。学校教育や地域学習の素材としても大きな可能性があり、次世代へ歴史を伝える場としての活用も重要です。鎌倉市教育委員会文化財課の皆様による丁寧な案内と整備に、改めて感謝申し上げます。

藤本あさこ
副委員長
所 感

大石 香
委 員
所 感

1 史跡大町釈迦堂口遺跡について

この一帯には北条時政の屋敷があったと言い伝えられており、関連する何かが発掘されることが期待されましたが、遺構の年代は時政が活躍していた鎌倉時代初期までさかのぼらなかったことと、遺跡の状況から寺院など宗教的な施設であるとのことでした。今回は暫定公開で 2/26 (木) から 3/11 (水) の 2 週間、時間帯は 10 時から 16 時まで、釈迦堂口にたどり着くまでの道のりは鎌倉駅東口から徒歩 30 分、バスを利用しても最寄りのバス停から徒歩 15 分ほどかかり、アクセスが良いとは言えない場所ですが、視察した最終日はかなり賑わっていました。すでに 1800 人ほどの方が来られたと聞き、地域の皆様の関心の高さをうかがい知ることができました。遺跡の北側平場は解放感があり鎌倉の自然と厳かな雰囲気を感じられました。階段状の坂を上って地蔵やぐら・唐糸やぐら、そして日月やぐらへと続きます。歴史を感じることができ、神秘的で写真映えもするため、観光拠点の一つになると感じますが、多くの経路は狭くて崖地なのですれ違うのが難しく、譲り合わないに進めない危険な箇所が多いと感じました。公開する前にロープ張りが必要な箇所が多くありました。そのため費用が多く必要になってきます。それゆえに公開を無料で募金箱を置くという形式ではなく、有料にして入場の人数制限などを行い、安全にゆっくり観覧できるよう環境整備する方が良いのではないかと考えます。環境が整った際には、鎌倉の子供たちにも訪れてもらいたいと思いました。

水上 委 所 武 史 員 感	<p>1 史跡大町釈迦堂口遺跡について</p> <p>2026年3月11日、鎌倉市議会教育福祉常任委員会の委員として、国指定史跡・大町釈迦堂口遺跡の暫定公開を視察した。公開期間中ということもあり、多くの来場者がガイドの説明に熱心に耳を傾けており、文化財を公開し、市民や来場者が実際に触れる機会の重要性を改めて実感した。</p> <p>場内を歩きながら、釈迦堂切通しのトンネル崩落箇所の補強工事について説明を受けた。トンネル上部に生じた亀裂に対し、立坑を設けて横方向に杭を通すなど、大規模な安全対策が講じられてきた経緯をうかがい、景観を損なわずに安全性を確保する工夫に深い敬意を抱いた。</p> <p>一方で、本格的な一般公開に向けては、山道からの転落・落石防止や来場者の動線管理など、安全面のさらなる検討が必要であると感じた。文化財の保護を最優先としつつ、ガイドツアー等による適切な利活用を進めることで、歴史への理解を深めるとともに、文化財保護に要する経費を受益者負担で補う仕組みづくりにもつなげていくことが重要であると考えている。</p>
--------------------------------------	--

1 史跡大町釈迦堂口遺跡について

【視察の目的】

史跡大町釈迦堂口遺跡は、鎌倉幕府期の宗教施設および都市構造を理解する上で重要な文化財であり、近年の調査により新たな知見が蓄積されつつあります。本視察は、遺跡の保存状況、発掘成果、今後の活用可能性について現地で確認し、文化財行政の課題と方向性を把握することを目的として実施したものです。

【概要】

令和8年3月11日、担当課職員の案内のもと、遺跡の現況、やぐらの保護状況等について説明を受けながら現地を確認しました。併せて、周辺環境との調和や市民への公開方法に関する現状と課題についても意見交換を行いました。

【発掘状況および出土遺構】

釈迦堂に関連するとみられる基壇跡や石組みが確認されており、当時の宗教施設の規模や構造を推測する上で貴重な資料となっていることを確認しました。周辺の地形改変の痕跡から、谷戸地形を活かした鎌倉特有の都市形成の一端が明らかとなっており、学術的価値の高さが改めて示されました。

【保存管理上の課題】

遺跡は住宅地に隣接しており、雨水対策や斜面管理など、長期的な保存に向けた継続的な維持管理が必要であるとの説明を受けました。

露出した遺構の保護方法については、学術的価値の保持と現地保存の可否を慎重に検討する必要があることを確認しました。

【公開・活用の現状と可能性】

現状では一般公開の期間を限定し行った。それにより、史跡の保存方法、多数の見学者による周囲の住民への影響等の課題を把握することになった。

【所見】

本遺跡は、鎌倉の歴史的特性を示す重要な文化資源であり、学術的価値のみならず、市民の歴史理解や地域アイデンティティの形成に寄与する可能性を有しています。一方で、保存と活用の両立には、行政による計画的な取り組みと、地域住民・専門家との協働が不可欠であると感じました。

【今後の対応】

遺跡の保存計画の明確化および長期的な維持管理体制の整備を求めてまいります。調査成果を市民にわかりやすく伝えるための情報発信の強化について、行政に対し検討を促してまいります。文化財の価値を地域の魅力として活かす観点から、公開手法や活用策の検討状況を引き続き注視し、必要な支援を行ってまいります。

また、大町釈迦堂切通の開通は令和8年度に予定されています。こちらについても注視させていただきます。

中村てつや
委員
所感

1 史跡大町釈迦堂口遺跡について

大町釈迦堂口遺跡の見学会が11日まで行われているとのことで、最終日に委員会として視察しました。

この遺跡は「名越ヶ谷〈なごえやつ〉」と呼ばれている谷戸の最奥部に位置する平場とその周辺の山稜部に位置する遺跡です。2010年（平成22年）8月5日、国史跡に指定され、また、日本遺産『いざ、鎌倉』の構成文化財にも認定されています。

かつて、北条時政の住居があったともいわれていましたが、2020年からの発掘調査では、遺跡の年代から時政の住居跡とは考えられない。遺跡の状況からも武士が住む屋敷ではなく、寺院など宗教的施設ではないかと考えられるとのことでした。

丘陵部のやぐらと平場の遺構が一体で遺存している箇所は鎌倉において数少なく貴重であるとのこと。中世都市鎌倉において宗教的な目的で行われたと考えられる谷戸の開発と、祭祀信仰のあり方を知るうえで貴重な遺跡であるとのことでした。

釈迦堂切通し付近は1977年（昭和52年）の落石以来40年以上通行禁止となっていました。鎌倉市が2021年（令和3年）度予算に切り通し部分の崩落対策費用を含む史跡環境整備費を計上し、通行止め解除も視野に入れた整備が始められることになりました。

また、遺跡の中核となる平場とやぐらの調査も進め、2026年度（令和8年度）を目途に公開を計画し、2026年2月26日～3月11日まで暫定公開を行ったのです。

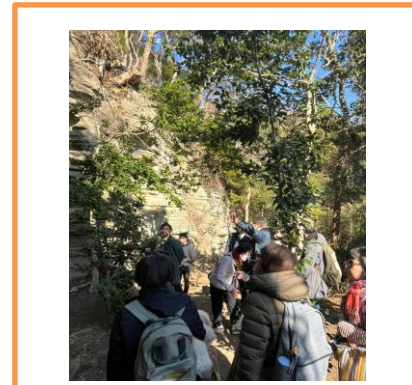
いろいろな課題を解決し、多くの人に鎌倉の歴史を知っていただきたいと思いました。



北側平場付近



日月やぐら



1 史跡大町釈迦堂口遺跡について

3月11日午後から視察した。令和4年に史跡大町釈迦堂口遺跡崩落対策工事を視察した以来となる。当日は、暫定公開最終日ということもあってかガイドツアーに多くの方々が集まっていた。私たちは、教育文化財部の鈴木庸一郎次長に案内をして頂いた。鈴木次長によれば、今回の暫定公開で約8,000名を超える方々にご来場頂いたとのことであった。釈迦堂切通の通行再開は令和8年度を予定しているので、暫定公開で視察できなかった「やぐら」も視察できると良い。国指定史跡ということで、保存活用が大変重要である。調査が進み、鎌倉の歴史がまた一つ紐解かれることを望む。

志田 一宏
委員
所感

